

母子寮

市史編さんだより(6)

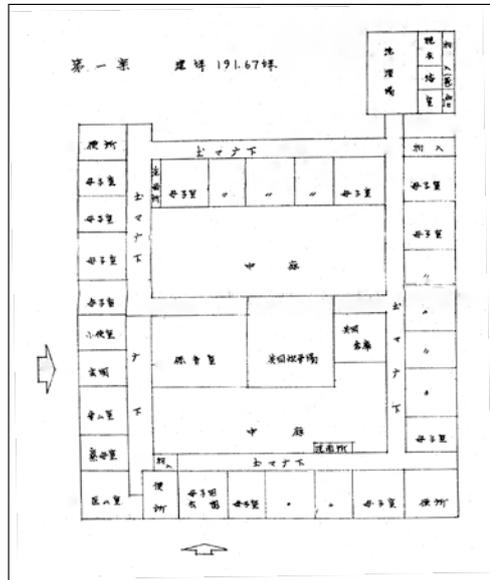
旧伊賀町役場の記録によると、昭和21年(1946)、上栢植に都美恵寮という外地からの引揚者のための住宅(引揚者要援護者住宅)が建設されたと記されています。これは、国策のため、旧満州などへ移住し、開拓などに従事していた人たちが、その地を追われ、命からがら故郷などにたどり着いたにもかかわらず、身を寄せる場所のない人たちとその家族を収容する場所として設けられたものでした。

収容者のほとんどは、夫と死別、あるいは外地で徴用(軍隊に入ること)され、シベリアへ抑留されるなどして離別した妻とその子たちでした。この施設は、後に「母子寮」と呼ばれるものとなっていったとみられます。

母子寮とよばれた施設は、旧伊賀町だけでなく、旧上野市にも存在していました。残念ながら、旧上野市にも存在していません。残念ながら、それに関する資料は今のところ確認されていませんが、昭和28年(1953)の台風第13号で大きな被害を受けた旧上野市が、国に提出した『台風十三号被害報告並に陳情書』の中に「第一母子寮の悲惨な姿」と題する写真が掲載され、その存在を伝えています。この第一母子寮は、現在の小田町・鍵屋の辻公園内にあったことがわかっています。このほかに、現在の運動公園に第二母子寮があったものとみられます。

昭和31年(1956)、栢植町(旧伊賀町の前身)は、栢植川沿いに新しい母子寮を建設し、「栢植母子寮」と名付け、授産場を併設しました。この授産場は、菓の加工品を生

栢植母子寮建設設計画図案



産するもので、工賃は非常に安価なものでしたが、当時は女性が就職することが困難で、母子家庭の家計を支える大きな助けとなりました。

母子寮が設けられた主な理由は、単に戦争によって家を失い、夫を失った家族を助けるというだけでなく、子どもたちの発育と教育を守ることもありました。この母子寮で育った子どもたちは、すでに熟年の域に達しているのですが、この母子寮を巣立っていった子どもたちがどれほどいたのか、母子寮がいつまで存在したのか、詳しいことを伝えてくれるものはほとんどありません。しかし、戦争で失われた尊い命、傷ついた体と心、そして残された家族の悲しみと苦労は、伊賀の歴史のなかにしっかりと刻み込んでいかなければなりません。

本庁総務課市史編さん係 ☎52・4380



発行日 平成19年9月1日
 発行 伊賀市
 〒518-8501
 三重県伊賀市上野丸之内116番地
 編集 企画振興部広聴広報課
 ☎0595-22-9636
 FAX 0595-22-9617
 伊賀市ホームページ：
<http://www.city.iga.lg.jp/>

ひとが輝く 地域が輝く
 ~住み良さが実感できる自立と共生のまち~
 伊賀市 IGA CITY

俳句の日記念事業「夏休み俳句教室」

8月19日、上野公園と中央公民館を会場に「夏休み俳句教室」を開催しました。「俳句の日」にちなんでこの教室には、夏休み期間中ということもあり今年も多くの子どもたちが参加しました。



先生から「難しく考えず、のびのびと思ったことを俳句にしましょう」と教えてもらった子どもたちは、周りのものを観察しながら指で5・7・5を数えていました。(今月の表紙)



この広報紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。